

ことが屢ある。

フチノ 藤野 鹿島郡矢田郷に屬する部落。
フチノウヘ 淵上 石川郡戸板郷に屬する部落。

フチノウヘマチ 淵上町 金澤の町名。もと龜淵町というたのを、後に淵上町と改稱したものであらう。享和三年幕府に進達した郷庄分町名に、堀川龜淵町を小名としてあるが、淵上町は記載してない。

フチノキ 藤ノ木 石川郡中村郷に屬する部落。寶永誌に、この村領に開道觀といふ者の屋敷跡があると記する。

フチノセ 藤ノ瀬 羽咋郡鉾打郷に屬する部落。

フチノハマ 藤ノ濱 四至郡阿岸郷に屬する部落。

フチノヲ 藤ノ尾 ノヂ 珠洲郡清水の内の小字。

フチハシ 藤橋 鹿島郡矢田郷に屬する部落。文祿五年四月十五日前田利家の印書に、『藤橋村、明神野にたてさせ尤候事。』とあるから、この時に今の地に轉じ來つたものである。能登名跡志に、『所口近在の藤橋村といふに、山岸と云ふ百姓あり。蓮如上人の筆の物を傳へて、毎年三月廿五日に弘めあり。』と記する。

フチハラアキスケ 藤原顯輔 顯季の子。鳥羽天皇の天永二年十月加賀守に任せられた。その在任中下國し居たことは、新古今集に『加賀守にて侍りける時、白山に詣でたりけるをおもひ出て、日吉の客人の宮にて觀侍りける。としふともこしのしら山わすれずばかりの雪をあはれとも見よ。』の詠があるに

よつて知られる。
フチハライヘカタ 藤原家方 能登永光寺の洞谷記に、その伽藍を藤原家方の寄進に係るとし、而して永光寺と開祖を同じくする總持寺傳には、この家方を宮權家尙の嫡男とするが、畢竟烏有の人物らしい。大乘寺が家尙によつて草創せられたに似うたものであらう。

よつて知られる。

フチハラタダヨリ 藤原忠頼 利仁將軍四代の孫。永延元年湍口の候人から擧げられて加賀介に任せられ、下國して政務を執つたが、國人その徳に懷き、任滿するもその去るを欲せず、長徳元年遂に永任の勅許を得たといふ。

フチハラナホアキ 藤原尙顯 前權中納言政顯の子。權大納言に進み、加賀に下向すること三回。天文元年能登で出家して法名を泰龍といひ、次いで榮空と改め、永祿二年八月廿八日薨じた。八十二歳。

フチハラヒコジンジャ 藤原比古神社 鹿島郡三階(今西三階)に鎮座する。神社叢書に、『藤原比古神社云々。三階村に在す。今鎌足宮と稱す。』とある。

フチハラヒデヒラ 藤原秀衡 白山記に、藤原秀衡が南殿坊の勸進によつて、白山頂上に五尺の金銅佛を寄進したことが見える。

フチハラマサアキラ 藤原政顯 權大納言教秀の男。文明十八年權中納言に上り、永正元年三月加賀に下向、大永二年七月廿八日同國井上庄に歿した。享年七十一。法名眞顯。在國十九年。

フチハラミチムネ 藤原通宗 大納言經平の子。後三條天皇の頃能登守に任せられ、その作に氣多宮和歌合一卷がある。この歌合は延久四年三月十九日社頭に於いて行はれたも

ので、氣多宮が羽咋郡のそれであることは、その中に載せられた源縁の櫻を詠じた歌が、後拾遺集には『通宗朝臣能登守にて侍りける時國にてよめる、源縁法師』としてあるのを以て知ることが出来る。金葉集に收められた『範永の朝臣出家しぬとき』とて、能登守にてはべりけるころ、國よりいひつかはしける。よそながら世を背きぬときからに越路のそらは打時雨つゝ』の歌も、亦通宗が能登にゐて詠じたものである。

その中に載せられた源縁の櫻を詠じた歌が、後拾遺集には『通宗朝臣能登守にて侍りける時國にてよめる、源縁法師』としてあるのを以て知ることが出来る。金葉集に收められた『範永の朝臣出家しぬとき』とて、能登守にてはべりけるころ、國よりいひつかはしける。よそながら世を背きぬときからに越路のそらは打時雨つゝ』の歌も、亦通宗が能登にゐて詠じたものである。

フチハラモトミ 藤原基富 父は基有。文龜元年權中納言に任じ、永正元年加賀に下り、三年官を辭し、大永二年七月加賀より上洛、十月正二位に陞り、三年三月復加賀に下向、天文二年二月廿八日在國のまゝ、薨じた。享年七十七歳。

フチハラモロモト 藤原師基 ↓ニジヨウモロモト 二條師基。
フチマキ 藤巻 四至郡穴水郷之内大屋庄に屬する部落。枝村に棟原がある。

フチマキノハナ 藤巻の端 鹿島郡大泊の内柳浦の海岸にある岩山をいふ。

フチマツ 藤松 白山にて遠松をいふ。山崎弘泰の山分衣に、『藤松松又せんぜう松ともいふ松ともいへり。』といふ松生茂れるが、上さまへ生たゝずて、ことさらに別なしたらんやうに、地にひらみていと平らかに、隈もなくはひひろごれり。』と記する。

フチマルジヨウ 藤丸城 ↓サクミジヨウ 作見城。

フチマルシンスケ 藤丸新介 江沼赤尾の岩に居た一向一揆の將。弘治元年七月朝倉宗滴の兵南郷城を陥落せしめた時、新介は恐れ

て赤尾を棄て横北に逃れたといふ。又作見の岩を一に藤丸の岩といひ、そこに小寺新介が居たといふも同人であらう。政春古兵談に、天正八年柴田伊賀守が江沼・能美の賊將を越前丸岡に招いて殺害したとき、佐見の藤丸新介が出奔したと記するが、その佐見は作見の誤であらう。

て赤尾を棄て横北に逃れたといふ。又作見の岩を一に藤丸の岩といひ、そこに小寺新介が居たといふも同人であらう。政春古兵談に、天正八年柴田伊賀守が江沼・能美の賊將を越前丸岡に招いて殺害したとき、佐見の藤丸新介が出奔したと記するが、その佐見は作見の誤であらう。

フチマルツカ 藤丸塚 江沼郡作見にある。爰慈紀聞に、作見村領壘割坂の側にある古松を藤丸新助の塚であるといひ、一説には藤丸の家臣上羽次郎左衛門の塚ともいふとある。

フチムラヨシナリ 藤村吉成 通稱忠左衛門又は太郎右衛門。越前の人。天正中富田重政に仕へて四百石を受け、大坂再役に従軍して首級三を獲、銀一枚・帷子二を賞賜せられ、後寛永十九年前田利常に仕へて三百石を受け、寛文五年歿。子孫藩に世襲する。

フチメシハナサレ 扶持被召放 ↓チギヨウメシハナサレ 知行被召放。

フチモトタザエモン 藤本太左衛門 加賀藩の御手役者で、觀世流太鼓を職とした。天明五年以來父子帶刀を許され、年頭の御目見には諸權之進・波吉宮門の次に列した。子孫世々その業を傳へたが、昭和十二年に歿した藤本純吉に至つて業系を斷絶した。

フチユウ 府中 鹿島郡矢田郷に屬する部落。七尾の府中町は之を隣接して、もこの村の一部分であつた。府中は古府と共に、王朝の頃國司の衙を置いた所なるべく、畠山氏に至つても滿蒙以後義元に至るまではこの府中に館を構へた。

フチユウサンノウジンジャ 府中山王神社 鹿島郡府中に在つて、七尾山王ともいひ、今

府中山王神社 鹿島郡府中に在つて、七尾山王ともいひ、今